

教室における話し合い活動の プロトコル作成とその質的三 層分析による評価について

7班

担当 松本修先生

桑原、若山、清水、寺澤、星野

振り返ってみましょう。

- 「活発に話し合っていた」
- 「いまいち盛り上がらなかった」

実際はどうだったのでしょうか？

その評価の判断は主観だけに基づいていませんか？

だから、分析が必要。

質的三層分析の意義

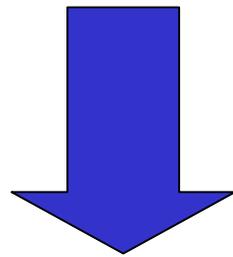
話し合いを

- 形式的な特徴
- 会話上の機能
- 意味的な内容

に分けて分析する

質的三層分析の意義

→主観性から離れ、**間主観性**
を確保し、より客観的に話し合
いを見ることができるようにな
る。



話し合いを評価の方法としても
用いることができる。

形式的な特徴

- 目で見えて分かる特徴のこと。

例：同時発話や連続発話が多かった。

笑いが多かった。

くだけた表現で話していた。

など

会話上の機能

- 会話を推進する上での機能を担うもの。

例：話が本題から脱線した時に元に戻そうとする会話

⇒〈話題修正というラベル〉

意味的な内容

- 解釈に関わるやり取りの意味。

例：発問に対して、メタレベルから解説したものやメタ認知的変容がある会話や発言。

メタレベルとは？



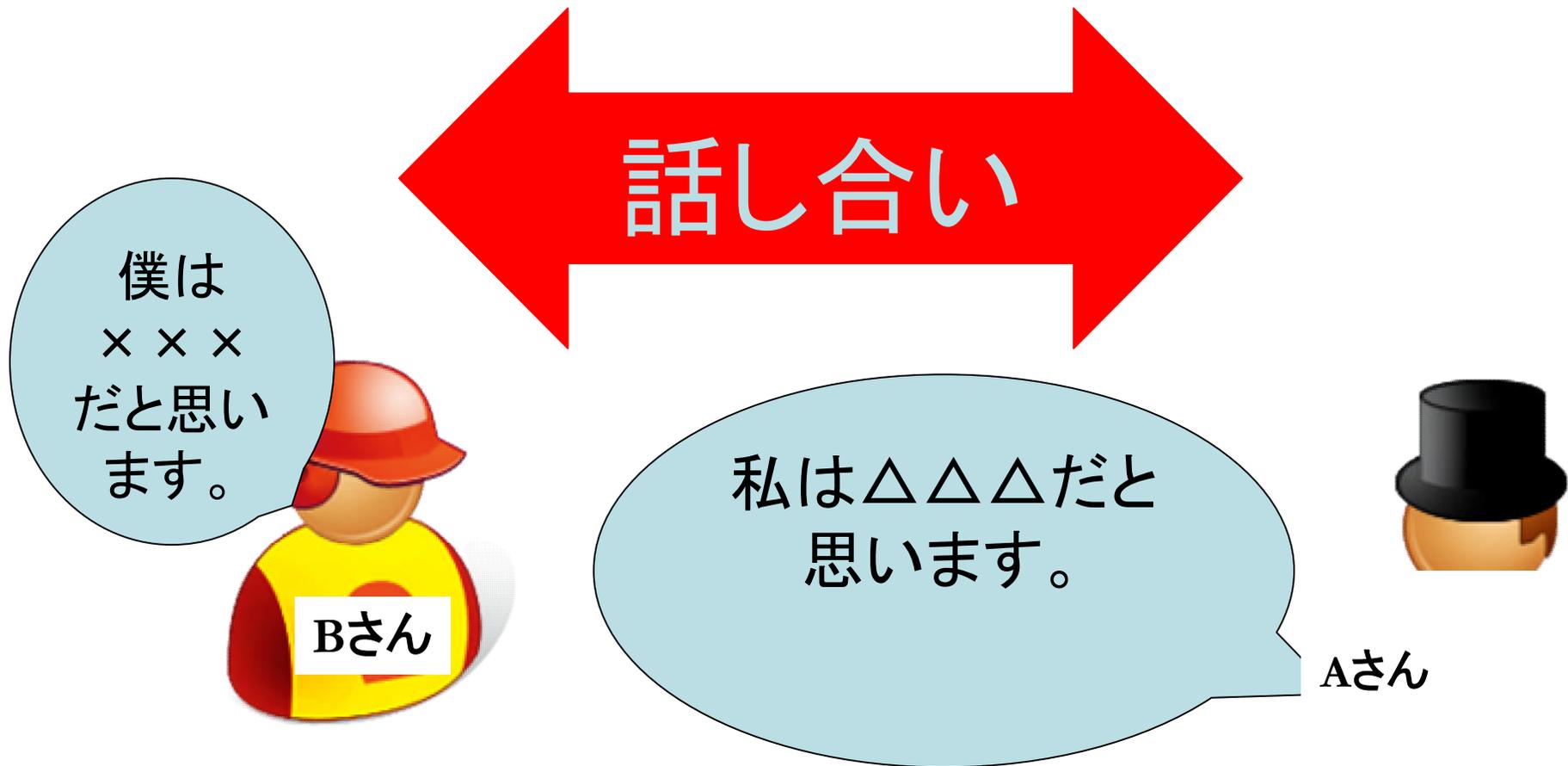
Bさんは×××といっているけれども、Bさんが言いたいことは〇〇〇ということかな？

僕は
×××
だと思います。



Aさん

メタ認知的変容とは？



メタ認知的変容とは？



Bさんは×××と言っているけれども、Bさんが言いたいことは〇〇〇ということかな？

僕は
×××
だと思います。



メタ認知的変容とは？



私は△△△と考えます。理由は●●●だからです。

話し合い



私の意見は変わりません。理由は、Bさんの○○という考えを聞いてもそこは□□□だと思っからです。

他者の発言や考えをふまえて自分の考えを述べている。

三層における注意！

- 形式的な特徴、会話上の機能、意味的な内容の3つの側面は、1つの発話に重なった形で現れることも多い。
- 手続き上あえて分けて分析する。

質的三層分析の方法

- ①話し合いを録音する
- ②プロトコルを作成する。

ア 文字に起こす。

イ 文字に記号を付ける。 ※紀要5ページ参照

- ③質的三層分析を行う。

ア 形式的な特徴を分析する。

イ 会話上の機能を分析する。

ウ 意味的な内容を分析する。

エ ア～ウに矛盾がないか分析する。

- ④話し合いが有効であったかを総合的に判断する。



ちなみに50分
の授業はおよ
そ**10時間**く
らいかかりまし
た

①話し合いの録音

- 題材について

谷川俊太郎作「どきん」の中のどのオノマトペ(擬態語・擬音語)が一番大切かを話し合った。

- 話し合いの時間は約50分
- 話し合いの様子をビデオ・ICレコーダーに録音した。



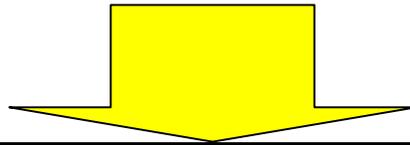
②プロトコルの作成

58H : ずっと悪いことをしてて、誰か、が振り向いた時に、まずいって思って、
どきんって思ったってのが一番最初の、イメージだったんですけど。

59W : ふーん。

60W : ふーん。

61S : ふーん。



58H : // ずっと悪いことをしてて、誰か、が振り向いた時に::、まず
いって思って、どきんって思ったってのが一番最初の、//イ
メージだったんですけど::=

59W : // ふ::ん。

60W : = // ふ::ん。

61S : = // ふ::ん。

記号のあるプロトコルのメリット

- 記号が入ることによって、会話の様子が可視化できる。
- 形式的な特徴（連続発話や同時発話）が現れているかどうかが見やすい。

③質的三層分析

「演習 三層分析について」

- 7班のプロトコルp.5～6から、形式的な特徴、会話上の機能、意味的な内容の三層について班で分析を試みましょう。(30分)
- 紀要を参照して分析してもかまいません。

形式的な特徴

